

第2回第七採択地区教科用図書採択協議会
議事録

期 日 平成29年7月26日(水)
場 所 北本市役所庁舎 3階 3-F 会議室
開 会 午前 9時30分
閉 会 午前11時30分

平成29年度 第七採択地区教科用図書採択協議会会長 真尾 正博

委 員	鴻巣市教育委員会	武藤 宣夫	教育長	石原 完	委員
	桶川市教育委員会	岩田 泉	教育長	水村 実男	委員
	伊奈町教育委員会	高瀬 浩	教育長	澤田 誠一	委員
	北本市教育委員会	真尾 正博	教育長	大保木 道子	委員

事務局	北本市教育委員会教育部長	吉澤 達也
	北本市教育委員会学校教育課長	佐藤 貴広
	北本市教育委員会学校教育課主幹兼指導主事	内田 浩子
	北本市教育委員会学校教育課主幹兼指導主事	永塚 壽一

1 開 会

2 あいさつ 第七採択地区教科用図書採択協議会会長（北本市教育委員会教育長）

3 日程の確認

（事務局）日程の説明

4 調査報告・質疑

（司 会）調査に入る。ここからは真尾会長に議長をお願いする。

（議 長）それでは、協議に入る。

記録について、要点のみ記録することによろしいか。

（全 員）異議なし。

（議 長）発言者については、議長とか委員Aという形によろしいか。なお、記録作成のため、録音させていただく。記録が済み次第消去するというので、いかがか。

（全 員）異議なし。

（議 長）傍聴人は第七採択地区教科用図書採択協議会傍聴人規約に基づき、傍聴願う。それでは、協議に入る前に、選定の流れについて、事務局に説明願う。

（司 会）選定の流れについて事務局から提案がある。

（事務局）協議に先立ち、3親等以内の親族に、教科書会社に勤務している方がいないか確認する。

（委 員）該当者なし。

（事務局）選定の流れについて提案する。

協議終了後、教科用図書選定の時間において、協議の内容から委員の皆様のご意見により決定していく。委員全員の意見が一致したときには、その教科書を第七採択地区の選定とする。

一致しなかった場合、規約第13条により、投票となる。投票の場合は規約第13条の2項により、過半数を得た教科用図書を選定とする。

また、規約第13条3項により、過半数を得ない場合は、得票数の多い順から2種類の教科用図書について投票を行い、多数を得たものを選定する。

規約第13条の4項において、得票数が同じ場合、協議経過を勘案して会長が決する。

選定の流れについては以上。

（1）保護者の代表による研究結果の報告

（保護者代表）保護者の立場から特別の教科道徳の教科用図書を調査した結果を報告させていただく。

東京書籍については、巻頭にある学習のオリエンテーションがしやすくなって

いる。グループ学習を意識し、議論を行いやすいガイドが記載されている。教材ごとに設けられている問いかけが児童の心に問いかけられるよう工夫されている。

学校図書は、読み物と活動の2冊に分かれている。「活動」では、考えたり話し合ったりすることを想定した「アクティブ」という問いかけが多く設定されており、実際にどれを話し合うのか、選択を可能にしている。教材ごとの冒頭に、4つの視点と内容項目が明記され、ねらいがわかりやすくなっている。また、各ページに一定の余白があり、読みやすい。

教育出版では、文章による教材が中心となっており、先人や偉人に学ぶ内容が多くなっている。教材ごとの冒頭に4つの視点と学習テーマが記載されている。また、体験的活動として役割演技の実施を意識し、取り組みやすいよう工夫されている。

光村図書では、表紙から巻末の最後に至るまで、デザインや挿絵等に工夫がされており、児童の関心を高めるものになっている。教材ごとに設けられている「考えよう」では、多面的に問い、「つなげよう」で考えを深められるよう工夫されている。また、アサーション※が取り入れられているのは実践的である。

※アサーションとは、よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルの一つ

日本文教出版では、教科書本体とノートがセットで、分冊となっており、後から振り返りやすい。別冊のノートは見やすくなっている。また、教材の冒頭に4つの視点、内容項目が示されており、児童に課題のポイントを提示している。内容としては、著名人や偉人など先人に学ぶ内容が多く、迫真性がある。

光文書院では、特に低学年の教科書に大きな絵があり、デザインも工夫されている。自己評価としての「学びの足跡」が設けられており、児童が感じたことや、心の動きを、矢印で書くことによって、自分の成長を感じられるよう工夫されている。

学研教育みらいでは、教材ごとの冒頭に内容項目が示されておらず、児童が自ら課題を見つけ、自ら考えるように児童の主体性を育む工夫がされている。教材ごとに、児童が考える課題が必ず2つ設定されている。教科書が大きく、全体的に文字も大きい。実在のスポーツ選手に学ぶ教材が多い。

廣済堂あかつきでは、教材ごとの主題が最小限にとどめられており、児童が自

ら考えるように、児童の主体的な取組を促す工夫がされている。教材ごとに考えるポイントが示されている。本体とノートの分冊になっており、両者が連動していて、児童が振り返りやすい構成となっている

(2) 調査員による研究結果の報告

(議長) 調査員による調査研究結果の報告に入る。よろしく願います。

(調査員) 教科目標とのかかわり、教材の取り上げ方の工夫、深く考えさせるねらいを達成させるための工夫といった視点から研究を進めてきた。

東京書籍

- ・ 導入教材・本編教材・付録の3部構成となっている。
- ・ 導入教材は、1年間で学ぶことなどのオリエンテーションとなっており、道徳の学習についてイメージしやすいよう工夫されている。
- ・ 本編教材では、教材の冒頭に内容項目をわかりやすい言葉で示した学習のテーマを色別で掲載し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。
- ・ 教材の末尾には、ココロンというキャラクターが考えるポイント・視点等を問いかけ、学習の方向付けをしている。
- ・ 本編教材の最後には、学習の振り返りとして「これからも輝く自分に」というページに書き込みをしながら自らの成長を実感できるようにしている。
- ・ 巻末の資料、付録のページ、教科等の関連や実際の生活との関連を示した写真や資料が多く掲載されている。
- ・ 特徴として、全学年で「いじめ問題」を直接取りあげている直接的教材、いじめをしない・許さない心を育てる間接的教材、導入ページの3点セットでユニット形式として組み立てをし、時間をかけて「友達のこと」「命のこと」「いじめ」について、深く考えられるようにしている。

学校図書

- ・ 教材文を掲載した「読み物」と、発問や体験的活動を掲載した「活動」の2分冊で構成されている。
- ・ 「読み物」では、巻頭にオリエンテーションのページが用意されており、道徳の時間の学び方についてイメージしやすいように工夫されている。
- ・ 各教材の冒頭に内容項目・主題を明示し、課題に向かう姿勢を作り出せるようにしている。
- ・ 「活動」では、内容項目ごとに、見開き2ページに関連教材を配置してある。
- ・ 教材ごとに発問例が掲載され、考える方向性を示したり、問題解決的な学習、体験的な学習など様々な学習活動を示したりして、児童が自ら考え、道徳的価値に迫ることができるよう工夫している。

- ・ 「活動」の巻末に、資料・ヒントを掲載し、話し方や聞き方などの行動の仕方を具体的に示している。
- ・ 特徴としては、2分冊になっていることにより、教材と発問を分離し、児童が先入観をもつことなく、教材文の世界に入ることができる。また、クラスの実態に応じて、発問をアレンジして授業を組み立てることができる工夫がされている。

教育出版

- ・ 道徳開きのページを設け、自分のことに気付く欄を設けてある。これまでの自分を振り返りながら道徳の学習を進めていく心構えをつくり、主体的に進めていけるようにしている。
- ・ 教材は内容項目ごとに配列されている。1項目について2教材を配置している項目もある。この内容項目ごとの配列をしているのは教育出版1社であった。
- ・ 1教材に2時間を配当している教材も複数ある。じっくり時間をかけて考えることができるようにしている。
- ・ 教材ごとに投げかけ、問題意識やねらいを把握させ、問題解決的な学習ができるようにしている。
- ・ 教材の末尾には、学びの手引きが配置されており、考える視点を明示している。一部には、「ジャンプ」というページが配置されており、児童に役割演技をさせ、道徳的価値を深めることができるよう工夫されている。
- ・ 巻末には振り返りがあり、1年間の心の変容をみとり、さらによりよく生きる工夫をしている。
- ・ 教育出版の特徴として「学びの手引き」が挙げられる。教材に対する問いや道徳的価値に対する問い、今後の行動の方向が示され、クラスの実態に応じて取捨選択して授業を展開することができる。

光村図書

- ・ 表紙にジブリの絵を採用している。
- ・ 1年を4期に分けて教材を配列しており、時期に応じて重点を置いた配列となっている。
- ・ それぞれのまとまりごとに、「自己をみつめる」「他者とのかかわり」「より広く社会や人とのかかわり」等、重点を絞って教材が配置されている。
- ・ 教材の末尾に、児童が書き込める「学びの記録」が用意され、学びの変化や自己の成長を振り返られるようになっている。
- ・ 教材の導入部では、課題を意識できるようにするために、「ココロン」というキャラクターの問いかけによって主体的に学びに向かえるよう工夫されている。
- ・ 教材の末尾には、学習の手引きとなる「考えよう」が配置され、道徳的問題をあ

きらかにする問い、道徳的価値について考えを深める問いが掲載されている。

- ・ 特徴としては、教材の配置の仕方が挙げられる。1年を4期に分けそれぞれに重点化して配置するとともに、いじめに関する教材を学年の初めに配置することで、年度初めの学級づくりや友達づくりに生かせるよう工夫されている。

日本文教出版

- ・ 教科書・道徳ノートの2分冊構成である。
- ・ 教科書の巻頭に道徳科を学ぶ意義、学び方を写真入りで示してある。
- ・ 教材の方は、考えを引き出し、議論を活発にするために、冒頭で主題名、導入時の発問、あらすじを掲載し、末尾ではねらいに迫る発問、自分を見つめ今後に生かす発問を記載している。
- ・ 道徳のノートでは、巻頭にある扉で、自分のことを書き込み、自己を見つめることができるようにしてある。
- ・ 教材ごとに、1ページが割かれており、自分や友達の考えを書き込めるようになっている。
- ・ 巻末には保護者の書き込み欄が設けられており、保護者との連携が図れるようになっている。
- ・ 特徴としては、「いじめ防止」を最重要テーマとし、「人とのかかわり」という視点から、学期に1回関連教材を配置している。複数の教材を配置したユニット形式で構成し、4年生では、いじめのデータを示したり、ロールプレイや声かけの仕方を示したりして、「いじめ」に対する確かな理解を促している。

光文書院

- ・ 巻頭にオリエンテーションとして8ページを割き、道徳の時間の学び方、教科書の使い方、道徳ノートの例などを掲載し、学び方などをイメージし主体的に学びやすくしている。
- ・ 教材の初めに主題、導入時の問いかけを掲載し、教材を読む前に子供たちが問題意識をもつことができるようにしている。
- ・ 本文の下段（脚注の部分）にキャラクターや友達が、多面的多角的な問いを発し、末尾には考える視点や、学んだことを日常生活に広げるための提案が示されている。
- ・ 巻末に「学びの足跡」という自己評価シートが用意され、授業後の心の動きを記入することで道徳性を育み、自らの成長を実感できるようにしている。
- ・ 光文書院の特徴として、深く考える学びにつなげるための工夫が挙げられる。一例として8ページにわたるオリエンテーションにより、教科書の使い方やノートの書き方の例を丁寧に示している。また、クラスの実態に応じた指導ができるように各学年で5～6点教材が付加されるとともに、重点項目に関して複

数時間で扱えるよう工夫している。

学研教育みらい

- ・ 巻頭に見開きで詩や道徳の学び方を紹介するページが用意されている。その中に、自分のことを書くページもあり、自分を見つめながら、めあてをもって学習に取り組めるようにしている。
- ・ 教材文の冒頭に、学習指導要領の4つの視点だけが書かれており、主題名等についてはあえて示していない。このことで教材についての児童の意識を大切にしたい授業構成・展開ができるように配慮されている。
- ・ 児童が主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことができることが意図されている。
- ・ 教材で学習したことをもとに、さらに学習を深めたり広げたりするために、深めよう・やってみよう・広げよう・つなげようといった4種類の学び方が提示されている。
- ・ 特徴として、A4判の大判サイズであり、写真やイラストなどが効果的に配置され、児童の感性に訴える工夫がされている。
- ・ 命の教育も全学年で重点としており、各学年で関連教材が3点配置されている。

廣済堂あかつき

- ・ 組み込み式の2分冊となっている。別冊が本冊にぴったりと入るよう工夫されている。
- ・ 巻頭に詩と道徳の学び方を紹介するページが用意され、道徳の時間にどのように学ぶのかがイメージできるように工夫してある。
- ・ 教材の末尾には、考えよう・話し合おうの欄があり、学習のめあて・考える視点、学習を広げる提案が掲載されている。
- ・ 別冊のノートは、本冊とは異なり、内容項目ごとに配列されている。授業を通して感じたことや考えたことを記入することで、自己を見つめ生き方について考えられるようにしてある。
- ・ 末尾の「心のしおり」では、教材別に自己評価ができるようにしてある。
- ・ 特徴としては「生命を尊重する心」を最重要項目に位置付け、全学年で発達段階に応じて、「命の教育」に関する特別ページが設けられている。4年生では犯罪から身を守る、地震から身を守ることを取り上げる等が取り上げられている。

(議長) 何か質問はあるか。質問の際には「所属」「氏名」を述べてからするように。

(委員A) ノートになっていることについて話題は上がったか。

(調査員) ノートへの記載が残っていた方が評価時によいのではないかという意見と、授業の中で「書く時間」を割くことは難しいといった意見もあった。

(委員B) 1つの教材の中に細かく「問い」が入っているものから、最後にいくつか「問い」があるものもある。「問い」のことについて話題になったことはあるか。

(調査員) これからの道徳の授業は、考え議論する道徳に変化していく。今の学校の中で授業を組み立てる際の資料として、具体的に発問等が用意されている方がよいのか、それとも、逆にそれがあるがために授業の組み立てが難しくなってしまうのではないかといった2つの意見があった。

(委員C) 「いじめ」「情報モラル」についての軽重があるが、話題に上ったか。

(調査員) 「いじめ」問題の取り上げ方が大きく2つに分かれる。1つは、直接的に取り上げた教材、もう一つは広い意味で、例えば「友達と仲良くしよう」「親切にしよう」を取り上げて、子供たちの豊かな心を育てるという観点から迫っていくという2種類である。「いじめ」が実際にあった学級において直接的な教材が扱えるだろうかといった意見が出ていた。逆に正面から取り上げて、授業にした方がよいといった意見も出ている。「情報モラル」については、直接的に情報を取り上げているもの、また、約束やルールなどを守る態度を育てるといったものの2つの観点から取り上げているものがある。

(委員D) 文科省の「私たちの道徳」と教科書との関連について話題に上っているか。家庭や地域の話題に上るような、教科書の前段のようなものが載っていたが、そういったことは話題に上っているか。

(調査員) 数社は、保護者に記入してもらおうなど、保護者に道徳を意識させるような工夫をしている。

(委員E) 「命を大切にすることや、命がつながっているなどについて話題に上ったか。

(調査員) どの会社も「生命尊重」については重点的に取り上げている。低・中・高と発達段階に応じたポイントを置きながら教材が配置されている。

(委員F) 児童が記入したものが記録に残ることについて、話題に上ったか。

(調査員) 記録することによって、「自分が前にこんなことを思っていたんだ。でも今はこう

考える」等、自分自身の成長を見直すことができるよさがある。教師側でも、一人一人の成長をみとることができる。逆に「書く」ことは非常に時間がかかるものである。低学年では難しいといった意見もあった。

(委員A) 挿絵やマンガに対しての意見があったか。

(調査員) キャラクターやイラストなどについては、親しみやすさ・入りやすさといった部分で、すんなりと入りやすい。良い悪いの判断はできない。身近に感じる子もいれば、そうでない子もいる。しかし、比較的抵抗感がなく授業に入りやすいと考える。

(委員B) 教科書の重さについて話題に上ったか。

(調査員) 重さについての議論はなかったが、机上に広げたとき、うまく配置できない児童もいるといった意見があった。

(委員C) CDがついているものがあるところもあつたが、ビジュアル的なことに関する論議はあつたか。

(調査員) デジタル教科書のことであると思われるが、実際に目にしてはいないので論議してはいない。

(議 長) 他にはあるか。

ないようなので、以上をもって調査員報告及び質疑を終了する。

【協議】

(議 長) 続いて、平成30年度使用小学校用教科用図書 道徳科について協議を行う。各委員には、小学校の教科用図書 道徳科の研究をしていただいているが、協議を進めていくので、それぞれの意見をお願いします。

また、先ほどの調査員による調査研究結果や、各市町の調査研究結果も踏まえていただくようお願いします。

(委員A) 道徳の教科書とは、よいことを押し付けられたり、よい人間にならなくてはならないと考えたりさせるものでは困る。6年生の教科書で、身近にある出来事を教材化してあり、子供にどう考えるかと問いかけているものがあり、大変素晴らしいと感じられた。これは学研であった。

本市町の勉強会で他の委員から、表紙の絵や1ページ目の詩がすがすがしいと感じられたとの意見があった。

さらに、題材やテーマ・主題が書かれておらず、先入観なく「自分だったら」と考えられるので、よいと思った。押しつけがましくなく、互いに気持ちを出し合える「学研」がよいとした。

(委員B) 小学校の道徳がどのように行われているか2つの学年を参観し、いろいろな質問をしたうえで、教科書選定の話合いをした。しかし候補を絞るのが困難であったため、本市町は光村、光文書院、廣済堂あかつきの3点を候補とした。内容については、先ほど調査員等からあったものと同じである。

(委員C) 教育委員の学校訪問等で、道徳の授業を参観した。どの教科書会社も特徴があり、観点ごとにより教科書が異なった。

なぜ道徳は教科となったのか、これまでの道徳の授業が実践力として高まっていっていないという問題点が根本にある。自分たちで課題を主体的に考えて、課題をみつけ、学習できるパターンが必要であると考えた。

第1点目としては「学研」、2点目は「東京書籍」である。テーマ、いじめの取り上げ方、情報モラルの取り上げ方にも特徴がありよかった。そのほかにも、偉人の中で誰を題材として取り上げるかにより、話合いにも影響が出てくるといった意見もあった。

(委員D) 道徳の教科化の背景を考えて議論した。選定していく中で、委員から次のような意見として挙がってきた。

1つ目は、考えを押し付けるようなものは避け、子供たちが自分で判断できるようにしていきたい。

2つ目は、教科書を活用した授業の中で、考える力や判断する力をつけたい。教科書からあれこれと指示される問いによって授業が左右されるのではなく、教師の自由・教師の考えで、授業を組み立てられることが望ましい。子供たちが自由に議論できる授業が望ましい。

3つ目は、自分の考えたことを記録するのはよいことであると思うが、量が多かったり、いつも決められていることを書いたりするのはいかがであるか。子供たちが受け身になったり、書くことに時間が割かれ、議論の時間が短くなってしまったりしてはよくない。適量であることが望ましい。

4つ目は、読み物を読み進めたり、人物の心情を追って行ったりするようなこれまでと同様な授業は超えたい。また、問いが丁寧に示されているのは、教師も子供も受け身になってしまうのではないか。能動的な学習、アクティブな学習をめざせる教科書がよい。結果としては3つの会社に絞り込んだ。

第1案は「学研」。

教育委員が挙げた道徳教科書・授業の在り方を実現する可能性が一番高いと考えた。この会社の教科書は、冒頭に主題名を示さないなど児童の主体的課題意識を大切にしている。教材の最後に「考えよう」を設定して教材・主題に関する、2つの問いが厳選されている。考えたり議論したりすることにつながりやすい。活動のさせ方が多様で豊かである。問題解決的な学習を進められる。また、無理のない量での書き込みができる。唯一A4判で、文字が大きく行間も空いている。写真等も大きくて迫力がある。

第2案は東京書籍。

本市町の視点において学研に準ずる教科書である。児童の主体的な課題意識を大切にしている。教材文の最後に教材に関する問い、主題に関する問いという2つの問いが厳選されていて、考え議論する道徳には使いやすい。ただ、この問いが抽象的になりすぎ、よい話で終わってしまう恐れがある。学習過程に関するものや考えるステップがあり、学び方につながりがあるなどが、主体的な議論を大切にするという視点につながる点がよいとした。

第3案は光村。

1・2案とは違った視点となる。

丁寧な展開、学習過程をとおして道徳的諸価値について理解を促し、自己の生き方を考えさせようとしている。

1時間の授業の展開がイメージしやすい。逆に言えば受け身になってしまう。主題・問いかけ・教材名・教材文、終わりにある「考えよう」のなかに教材文に関する問い、道徳的価値に関する問い・そして「つなげよう」があり、使い方によっては、子供たちによく考えさせたり、議論のもとになったりするのではないか。

(委員E) 先生方はどういった評価をするのだろうか。文部科学省のサンプルを見たが、記述式であること、枠も昔の行動の記録ぐらいのものになっているが、先生方は大変であろうという話が出た。

(議長) ひととおり、意見が出たようなので、協議を終了する。ここで、公開についても、一旦終了とする。傍聴人には、退席をお願いする。それでは、暫時休憩とする。選定は、10時50分開始とする。

協議終了、傍観者退席……→採択決定時に再入場

~~~~~暫時休憩~~~~~

【選定】 非公開

~~~~~ 暫時休憩 ~~~~~

傍観者再入場

(議長) 再開する。では確認する。選定の結果、株式会社学研教育みらいを第七採択地区小学校用教科用図書道徳科の採択案としてよろしいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 以上をもって、議長の任を解かせていただく。

(事務局) この後の手続きだが、各市町に持ち帰り、各教育委員会での議決を行い、7月31日(月)までに事務局へ報告をお願いする。

4市町全てにおいて、第七採択地区案を議決し教科用図書が採択されたことを確認できたら、各市町に連絡する。なお、需要票の記入のために、学校へ教科用図書名を知らせする期日については、採択が決定してからになるので、しばらくお待ちいただきたい。併せて各市町教育委員会においては、事務局からの連絡後、義務教育指導課からの文書「平成30年度使用小学校教科用図書採択結果の報告について」を南部教育事務所長に提出をお願いする。なお、採択教科書案を各市町事務局職員にお渡しするので、受け取られてからお帰りいただくようお願いする。

5 あいさつ 第七採択地区教科用図書採択協議会会長(北本市教育委員会教育長)

公正かつ慎重な協議により、無事に小学校用教科用図書道徳科の選定案を決定することができた。最終の採択に至るまでの事務を厳正かつ慎重にそして間違いなく進めてまいる。御協議に深く感謝する。

6 閉 会

(事務局) 委員の資料は、回収させていただくので、机上に置いて、退室願う。

以上で第2回第七採択地区教科用図書採択協議会を閉会する。